

幸福度指標に関する ウェブ・アンケート調査 中間報告

(平成23年1月21日13時～2月7日19時)

内閣府ウェブサイト上

経済社会総合研究所

政策統括官(経済社会システム担当)

現時点の回答者数と属性

回答者総数: 60名

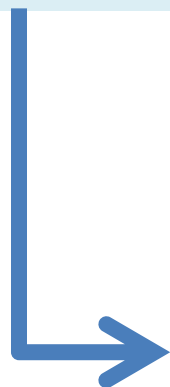
性別: 男性 43名 女性17名

年齢: 18歳から77歳

年齢	人数
20代以下	17
30代	17
40代	18
50代	6
60代以上	2

回答者の家族構成

単身である	18
同居の家族がいる	42



配偶者、またはパートナー、子ども	17
配偶者、またはパートナー	6
親	9
それ以外	5

子供の数

20歳以上の子どもが1人もしくは2人いる。	4
20歳以上の子どもが3人以上いる。	2
15歳以上20歳未満の子どもがいる。	2
小学生又は中学生の子どもが1人いる。	7
小学生又は中学生の子どもが2人以上いる。	4
未就学の子どもがいる。	7

職種

会社員(公務員を除く)で管理職以外	13
会社員(公務員を除く)で管理職	7
会社の役員	3
団体職員や団体の役員	5
公務員	8
自営業(農林漁業、商工サービス業などを含む)	8
派遣・パート・アルバイト	5
専業の主婦・主夫	0
学生	4
無職(専業の主婦・主夫を除く)	4

本人、家族の状況

本人	失業中、その他	8
家族	失業中	6
	その他	8

問1 今後、以下のうち、どのようなことを社会の目標にしていくべきだと思いますか。特にあてはまると思われるものを5つまで選んでください。

安全・安心に暮らせる社会	35
幸せを感じている人が多い社会	33
他人への思いやりがある人が多い社会	30
仕事の充実感が高い社会	28
生活満足度の高い人が多い社会	26
この国に暮らせてよかったと思える社会	25
心のゆとりがある人が多い社会	22
環境にやさしい生き方ができる社会	21
自由に発言が出来る社会	21
すべての者に居場所と出番のある社会	18
国内総生産(GDP)、所得の多い社会	13
生き心地の良い社会	12

問2 問1の社会の目標を達成する上でどのような分野を重視すべきだと考えますか。特に重視すべきと思われるものを5つまで選んでください。

就業状況(仕事の有無・安定)	41
健康状況	39
家族関係	31
家計の状況(所得・消費)	29
精神的なゆとり	29
趣味、社会貢献などの生きがい	29
地域コミュニティとの関係	22
自由な時間	19
仕事の充実度	13
友人関係	13
職場の人間関係	13
充実した余暇	12

問3 幸福を指標化するときに重要であると思われることを次の中から5つまで選んでください。

仕事の満足度や経済的安定	29	子育てのしやすさ	15
心の健康	24	所得と富	13
自尊心(自分の人生への評価・自信など)	21	家族との関係	13
犯罪の被害の少なさ	19	他人への信頼感	12
身体的健康	18	財政の持続可能性	12
貧困の状況	17	失業の状況	11
居住環境	15	行政への信頼	11

問3 続き

地球環境の持続可能性	10	健康余命(不健康な期間を除く余命)	5
人と一緒に行う活動(文化、スポーツ活動など)	7	余暇	4
サポートしてくれる人の存在	7	司法への信頼	4
医療サービスへのアクセス	6	国際競争力	4
地域活動の活発さ	6	人のために行う活動(ボランティアなど)	3
教育や職業訓練	5	政治的活動への参加	2
起業のしやすさ	5	その他	1

問4 幸福を指標化する際に、利用方法により使用できる指標に限りがあります。最も重要だと考える利用方法を1つ選んでください。

様々な社会階層や個人属性別に水準を計測し、社会階層、個人属性ごとの格差や特徴を捉える。	25
現状を踏まえた上で、将来への展望を捉える。	22
国全体の水準を計測し、国際比較し、我が国の課題や特徴を捉える。	10
地域別に水準を計測し、地域間における格差や地域の特徴を捉える。	2
過去と比較し、経済社会の進歩を捉える。	1